

鈴越しの坂（石生谷町）

昔の話です。

保科越前守が三床山に城堡を築くの石生谷

から坂道を通って行く事にしました。

この坂道は、尾根つたいに続く狭い道のために
家来たちはとても苦勞しました。荷台に載せた兵
器や食糧は少しも前に進みません。毎日、毎日
荷なつて行く者、荷車を引っぱる者とそれは大変
な事でした。

「おい、しつかり引っぱれや。」

「なんやと、おめえこそちゃんと押さんか。」

「ちつとも前に進まんげ、どうするやい。何かえ
えすべ（いい方法）ねえかの。」

そんな家来たちの声は、様子を見に来た殿様の
耳に入りました

殿様は、しばらく目を閉じて考えました。

「そうだ、馬の力を借りよう、荷車を馬に引っぱ
つてもらえ。」

こうして、力のある馬が荷車を引っぱることに
なりました。けれども、この坂道は馬でもそうそ
う前に進むものではありませんでした。

「馬の鼻息も荒ろて、足取も悪いんにや。どうし
たらいいんかのう。」

と、またまた家来たちは頭を悩ませました。

「おい、馬はん、おめえをあてにしてるんにや
きばつてくれや。」

と、荷台をみんなで押していたその時です。

チリンチリンチリンと男の胸元から一つの鈴が転
がったのです、馬はその音に喜んでヒィヒィヒィ
ーンと力強く前に進んでいくので、男は、

「おめえ（馬）この鈴が気に入ったんか、ほんね
えうれしいんならおめえにやるわ。」

と、馬の首に付けてやりました。

馬はその鈴の音が大好きで喜んでこの急な坂道

を登ったそうです。

それからこの坂道を鈴越しの坂とも、鈴越しの
峠とうげとも言うようになったそうです。

